

平成25年度 新発田市道徳部 活動報告

部長 石黒 篤志(二葉小)

1 研究主題

「生活に根ざした道徳教育」

2 研究の概要

新発田市学校教育の指針では、「豊かな心を育む教育の推進」を3本柱の1つとし、「共生」の心を育てる道徳教育の推進を目指している。その中で、「生命の尊厳や思いやりの心を大切にする高い倫理観の育成」と「道徳の公開授業や体験を共にする場の設定など地域ぐるみの道徳教育の推進」を掲げている。

また、新発田市の特色ある教育として、「人間尊重の心を育てる人権教育、同和教育」がある。「同和教育の視点に立つ教育の実践（「かかわる同和教育」の実践）」「人のいたみが分かり、差別や偏見を許さない人権感覚を育てる教育の実践」を目指している。

この指針を受け、新発田市小学校教育研究会道徳部では、講演会と授業研究の2つの活動に重点を置いた。

講演会では、講演の内容と自分の実践を重ね合わせたり、振り返ったりしながら今後の道徳教育について自分なりに考え、自らの授業実践に活かすこととした。

授業研究では、1単位時間内での教師の手立ての有効性について意見交換することで、手立てのあり方について検討することとした。

この2つの活動を通して、各校においてさらなる道徳教育の推進を図ることを目指した。

3 研究の実際

(1) 講演会【平成25年6月14日(金) 15:30~16:40 参加者23名】

新潟市立大形小学校 渡邊 泰治 先生から、「生活に根ざした道徳授業の進め方」という演題で講演をいただいた。

学習指導要領には、「家庭や地域社会との連携を図りながら、ボランティア活動や自然体験活動などの豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮」とある。道徳授業ではしっかりと価値を学ばせることがもちろん大切であり、さらに、学んだ価値を活かせる体験の場も不可欠であることなどを、渡邊先生の実践をもとに教えていただいた。「資料が大変魅力的で、自分の授業にも取り入れていきたい」等、参会者からも大変好評であった。

(2) 授業研究【平成25年11月15日(金) 14:10~16:30 参加者15名】

渡邊先生を指導者としてお招きし、本田小学校 富樫 恵子 先生が提案授業をした。「生きるⅡ」の資料「このままではいけない」を使い、「差別の不当性を認識させ、勇気をもってまちがいを正していこうとする態度を育てる」ことをねらいとした。授業にあたり、次の手立てを講じた。

① 差別に気付かせるための手立て

資料の登場人物が言った根拠のない言動に着目させ、その中にある差別や偏見に気付かせる。さらに、子どもの発言をもとに、差別者、被差別者、傍観者の関係を構造的に板書することで、傍観者が正しい行動を起こさないことが差別を助長していることに気付かせる。

② 被差別者に共感させ、差別の不当性を認識させる手立て

一つ一つの差別を明らかにし、多くの差別を受けた被差別者の気持ちに共感させる。正しい言動をしている被差別者が差別されていることを強調することで、差別者への憤りを感じさせ、差別の不当性に気付かせる。



③ 自己を見つめさせるための手立て

もし自分が傍観者の立場だったらどうするかを考え、ワークシートに書く。その後、実際の場面を想定して、ロールプレイを行う。

協議会では、板書・発問の是非、児童が当事者意識をもって学んでいたか等について活発な意見交換がなされた。「板書での関係把握がよかったと思う。特に『ぼく』『まさる』と『みつる』の関係が、差別をしているという観点からすると実は同じであることを最後に板書で示したのはよかった。」と、手立てとした構造的な板書の効果についての肯定的な意見が多く聞かれた。

指導者の渡邊先生からは、1単位時間に活動を詰め込み過ぎると子どもの思考が深まらないことが考えられるので、複数時間扱いで考える必要があったのではないかとのご指導あった。また、振り返りの場が大切であること、未来に向かって開かれた道徳授業を構想することなどについても例を示しながらご指導いただいた。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 生活に根ざした道徳教育を進めていくために、どのような授業づくりをしていけばよいかを講演会での話や資料をもとにして、参加者一人一人が実際の授業を思い浮かべながら考えることができた。
- ・ 人権教育、同和教育の視点に立った道徳授業の指導過程(差別に気付くー被差別者に共感し、憤るー自己を見つめる)について、共通理解を深めることができた。
- ・ 差別者・被差別者の関係を構造的に把握させるために板書の工夫が有効であることが確認された。

(2) 課題

- ・ 1単位時間に多くの学習内容を含んで構想してしまうことがある。児童の実態等に応じて、指導過程ごとに区切ったり、体験活動と関連させたりしながら指導過程を構想する必要がある。
- ・ 今年度の活動(講演会・授業研究)内容を次年度に引き継ぎ、さらなる授業改善を図っていく。